35









Car Painting

車体塗装

車の受けた損傷を修復し、損傷前の状態に復元する塗装技能

1900年代初期まで、車体塗装には油性塗料を使用していたため乾くのに時間がかかり、大量生産ができませんでした。しかし1923年に硝化綿ラッカーという速乾性に優れた塗料が開発されたことにより、自動車塗装が急速に向上。それまで黒一色だったところに、さまざまな種類や色の塗料が増え、スプレーガンなど周辺機器の開発も進みました。現在「車体塗装」は自動車の錆を防ぎ、美しさを保つ技能に。競技では、車の損傷を正確に早く修復し、損傷前の状態に復元する技能と、装飾塗装に挑みます。



＜2025年大会 競技風景＞

競技職種と生活との関わり

日本の自動車の保有台数は、8,293万台（2026年4月：自動車検査登録情報協会）となり、人々の生活や産業の輸送手段として、なくてはならないものとなっています。使用目的や種類により材料やデザインが大きく異なる自動車。交通事故やちょっとした不注意など、さまざまな原因でボデーに思わぬへこみやキズを付けてしまう事故が起こっています。車体塗装職種の技能は、このような事故などにより損傷を受けた自動車を、事故前の状態に美しく正確に修復する技能です。

損傷の修復や色合わせ、補修塗装の繊細な作業を美しく正確に！

「鋼板部品の修正とブロック塗装」の課題では、鋼板部品の損傷部を形状修正しベースコートとクリヤコートで損傷前の状態に復元する技能が必要となります。「３コートパール調色」は、カラーベースの色合せとパールベースの塗り重ねによる２層の重なった合成色で色合わせを行う技能、「実車マスキング」の課題では、塗装を施すパネル以外の隣接パネルを含む車両全体のマスキング（養生）技能がポイントに。「装飾塗装」では、大会当日に公開される課題に対し瞬時に作業計画を立て、繊細なマスキング作業を早く・正確に行い美観の優れた塗装の仕上がりが求められます。

堀部 孝明 主査　ＪＡ共済損害調査株式会社



前回大会金メダリストからメッセージ！

［所属：トヨタ自動車株式会社］

菅田 翔太 さん

結構辛いことも多いと思いますが、頑張るとこうやって「いい景色」「いい感動」、本当にいい経験になると思うので、ぜひ頑張ってください！



前回大会金メダリストインタビュー！